

動植物集めビオトープ

山里の綾へ 再現へ

綾町、照葉樹林の保護・復元活動に取り組むのは森の会、日本自然保護協会の3者でつくる「綾生物多様性協議会」（会長・前田稯町長）は、町役場北側の敷地約4千平方メートルでビオトープの整備を進めている。町内で失われた

綾南川へと流れていくようにした。ドンコやテナガエビといった水辺の生き物の姿も見られるという。

整備作業は同協議会のメンバーのほか、町内外のボランティアが担う。2月27日には8人が集まり、町内でもあまり見掛けなくなったオキナグサを丘に植えた。

昨年夏ごろから参加するのは森の会メンバーの大津

町など「子ども遊びの場に」 整備

合えるビオトープを設けようと、14年度から本格的な整備に着手した。敷地は町有地と、町が借りた民有地がほぼ半々で、民有地はもとも耕作放棄地だった。

2月中旬までに敷地の造成が終了。水深約1メートルの池や湿地のほか、高さ約2メートルと約1メートルの丘を二つ築いた。池の周囲には町民から提供を受けた丸太を並べて観察路を造った。池は近くの湧き水を引

同協議会では今後も町民から情報提供を基に、山里特有の動植物を随時移していく。町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん(67)は「居場所がなくなり絶滅しかけている動植物のよりどころにした。子どもたちへの教育の場としてだけでなく、遊びの場としても活用してもらいたい」と話している。



里山の動植物の居場所づくりを目指し整備が進むビオトープ